

令和元年 7 月 16 日

大学評価・IR に携わるみなさまへ

## 大学評価・IR 担当者集会 2019 開催のお知らせ (第 2 報)

大学評価コンソーシアム

大学評価・IR 担当者集会は、今年で 13 回目となります。九州大学で開始して以降、これまで、神戸大学、立命館大学、九州工業大学で開催してきましたが、今年は再び神戸大学で開催する運びとなりました。

本集会は「**2. 日時**」に示す 2 日間にわたり開催します。1 日目には、①評価初心者、②ロジックモデル、③機関別認証評価及び④IR 実務、2 日目には、①国立大学法人評価、②共催団体の統計数理研究所・日本計算機統計学会による評価・IR のための統計講座及び③IR 実務等、対象の方々や扱う内容に応じた、それぞれ具体的なセッションを企画しています。

### 1. 主催者・共催者

主催：大学評価コンソーシアム、国立大学法人神戸大学

共催：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 統計数理研究所、日本計算機統計学会

### 2. 日時

令和元年 8 月 22 日 (木) 13:00~17:50 (評価初心者セッションのみ 10:00 開始)

23 日 (金) 9:30~16:00

### 3. 会場

神戸大学 六甲台第 1 キャンパス

(神戸市灘区六甲台町 2-1)

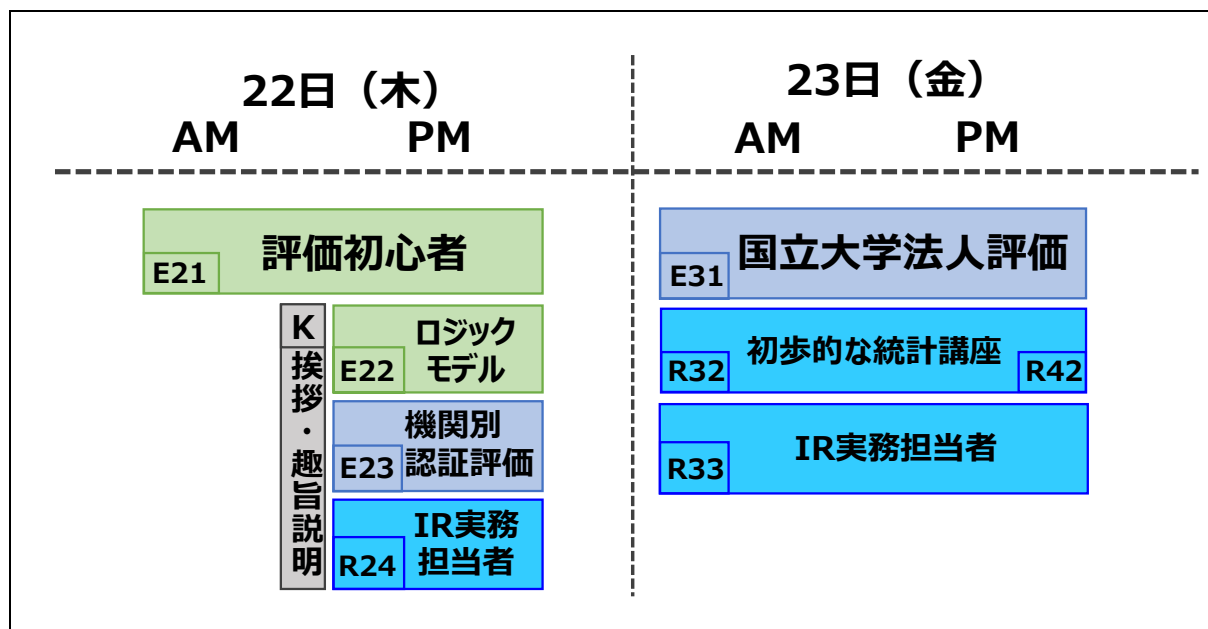
<http://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/rokkko/access.html#rokkodai-dai1>

### 4. 対象と参加費

- 大学において、大学評価や IR 等の現状把握、現状分析に関連する業務に携わっている方、あるいはこれまでに携わった経験を有する方、関係機関等に所属される方、関連する民間企業等の方を対象とします。
- 大学における評価部署、IR 部署や企画部署での勤務経験は問いません。学務系、総務系等のセクションの職員、学部やセンターの教員、技術職員、URA 等の専門職、大学以外の機関所属であっても大学評価や IR 等の現状把握を通じた大学の諸改善に興味をお持ちの方であれば参加いただけます。
- 参加費は、開催校 (神戸大学) のご配慮により徴収しません。また、原則的に**資料はオンライン配布**となります。ワークの関係で必要な紙資料を**印刷の上、ご持参いただく**場合もありますので、参加セッションのご案内に留意してください。

## 5. セッション構成

大学評価・IR 担当者集会は、相互交流、相互学習、情報共有をキーワードに開催しています。したがって、多くのセッションは参加者が主体であり、他大学・他機関の方との討論や情報交換等も設定されます。ただし、一部セッションでは、内容に即して講演形式で実施します。



## 6. タイムテーブル

第1日：8月22日（木）	
10:00～17:50	<p><b>[E21] 評価初心者セッション（定員 40 名）</b></p> <p>評価担当者として「評価とは何か」について基本的事項を理解するための講義と演習を行います。想定する参加者は、評価の実務経験がほとんど無い方（概ね1年未満）です。（評価初任者研修として、毎年ほぼ同じ内容を扱いますので、過去にこのセッションに参加したことがある方はご遠慮ください。）</p> <p><b>[担当スタッフ]</b> ○関隆宏（新潟大）、土橋慶章（神戸大）ほか</p>
13:00～17:50	<p><b>[E22] 計画立案・評価のためのロジックモデルセッション（定員 30 名）</b></p> <p>昨今、認証評価において、内部質保証システムを構築しそのシステムの機能的有効性と、組織内部での継続的な改善の仕組み作りが大学組織のマネジメントにおいて求められています。しかし、評価を意識した測定可能な目標や実現可能な指標等を含めた計画を立案することの難しさから、多くの大学では内部質保証システム構築の困難に直面していると思われれます。特に、計画立案においては、評価結果と具体的成果が概念的なものではなく、数値で表現するという難しさに直面しているケースも多くなっていると思われれます。つまり、どのように計画を立案・策定しそれを評価していけばよいのか、また計画のモニタリングや評価に必要な指標はどのように設定すればよいのかといったことが、内部質保証システム構築において解決すべき一つの課題として挙げられている現状があります。</p> <p>そこで本セッションでは、目標に達するうえで重要な計画間の論理的因果関係を理解して、その過程の中で評価可能な計画立案、それを評価する基準となる指標の策定などを扱</p>

	<p>うロジックモデルを学ぶ機会を用意しました。</p> <p>このセッションでは、基本的な内容を理解するための講義と、架空の大学のケースを使った演習を組み合わせ、計画立案と評価に対する基本的な観点や手法を身につけることを目的とします。</p> <p>【担当スタッフ】○小湊卓夫（九州大）、上畠洋佑（新潟大）、齋藤涉（東北学院大）、難波輝吉（名城大）</p>
	<p><b>[E23] 機関別認証評価セッション（定員 40 名程度）</b></p> <p>対象：機関別認証評価の担当者もしくは担当予定者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3サイクルの認証評価は、内部質保証システムの運用やデータ・資料の活用など、これまでより、さらに高度化が進んでおります。</li> <li>・このセッションでは、実際に認証評価を受審した大学の報告、内部質保証システムの解説などの事例報告を聞き、その後、評価機関別の小グループに別れ、実務的な情報交換を実施します。「ここに参加すれば、一定程度の他大学の準備状況を知ることができる」という場として設定します。</li> <li>・申し込み開始後 <b>1週間（7月24日）までは「各大学の参加者を2名まで」と</b>します。定員は40名程度となっておりますが、申し込み状況によっては増員する場合があります。</li> <li>・前半は3件の事例報告を行い、後半は4人班（スタッフを除く）を基本とし、70分1サイクルでメンバーを入れ替えながら、情報交換を行なうスタイルで進めます。当日の流れは以下のとおりです。</li> </ul> <p><b>■当日のタイムテーブル</b></p> <p>13:00–13:10 担当者集会オープニング・セッション趣旨説明</p> <p>13:10–13:35 事例報告1（大学改革支援・学位授与機構及び大学基準協会における内部質保証：高田）</p> <p>13:35–14:00 事例報告2（立命館大学事例：増田）</p> <p>14:00–14:25 事例報告3（山形大学事例：浅野）</p> <p>（休憩 15分）</p> <p>14:40–15:50 グループトーク1（70分）[4名×10班：認証評価機関ごと]</p> <p>15:55–17:05 グループトーク2（70分）[4名×10班：認証評価機関ごと]</p> <p>17:05–17:15 クロージング（まとめ）</p> <p>17:15–17:50 ふれあいコーナー（会場は18時すぎまで開放）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通テーマで議論できる班編成を行うため、<b>Web参加申し込み時に以下の関連情報を提出（入力）</b>願います。</li> </ul> <p><b>【事前に入力する関連情報】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 受審する認証評価機関</li> <li>2) 認証評価業務との関わり（従事期間）</li> <li>3) 最も課題と考えている部分、上手く機能している部分、皆さんに確認したいこと</li> </ol> <p>※事前に入力する関連情報については、参加申し込み後でも追記可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当日は、自大学の取組状況（準備状況）についてA4用紙半分～1枚程度にまとめたも</li> </ul>

	<p>のを、参加人数分ご持参ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者名簿は、事前に大学評価コンソーシアム Web サイトにアップする予定です。</li> </ul> <p>[担当スタッフ] ○大野賢一（鳥取大）、浅野茂（山形大）、鳶田敏行（茨城大）、末次剛健志（佐賀大）、高田英一（神戸大）、増田至（立命館大学）、藤井都百（九州大）、荒木俊博（淑徳大）、藤原将人（APU）、白石哲也（山形大）、久保田祐歌（関西福祉科学大学）</p> <hr/> <p><b>[R24] IR 実務担当者セッション（定員 80 名程度）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会員の皆様から IR や評価の現場での事例や課題を報告いただき、自大学での取り組みに対するヒントを得るとともに IR や評価の知見の共有を図るセッションです。</li> <li>今回は、兼ねてよりご要望いただいております定員増（35→80 名程度）にお応えできるよう、セッションの構成、運営方法式を見直しました。</li> <li>報告者への Q&amp;A は従来どおり行いますが、定員増に伴い、質問紙の配布と回収という従来方式での実施は時間的に困難であるため、各報告者への質問は原則、Web から投稿いただく方式に変更します。そのため、本セッション参加の皆様には、可能な限りスマートフォンまたはネットワーク接続可能なタブレット/PC 等をご持参くださいますよう、ご理解、ご協力をお願いいたします。</li> <li>本セッションの報告タイトルと報告者は以下のとおりです。概要はこの文書の最後にある「別紙」をご覧ください。</li> </ul> <div data-bbox="424 1003 1385 1626" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大学基本情報の分析環境の紹介と BI レポート作成・管理の tips  周東 夏希（大学改革支援・学位授与機構）ほか</p> <p>米国の IR 事情：FERPA と Registrar について  藤原 宏司（山形大学）ほか</p> <p>学修成果の評価と学修行動比較調査の可視化について  伏谷 建造（川崎医科大学）ほか</p> <p>アウトカム基盤型教育を導入している医学部で実施された間接評価から見えること  江端 弘樹（帝京大学）</p> <p>オーソライズされた「学修成果の評価方針」の内容と広がり：公表資料の網羅的な調査による検証  橋本 智也（四天王寺大学 教育学部/IR・戦略統合センター）</p> <p>R 言語を用いた教学 IR データの分析と可視化  西山 慶太（専修大学教務部 生田教務課（IR 担当））</p> </div> <p>[担当スタッフ] ○山本幸一（明治大）、岡部康成（帯広畜産大）、橋本智也（四天王寺大）、山本鉦（九州工業大）、田中秀典（宮崎大）、藤原宏司（山形大）、佐藤仁（福岡大）、鈴木達哉（山形大）</p>
--	---

第2日：8月23日（金）

9:30～16:00

[E31] 国立大学法人評価情報交換セッション（定員 40 名程度）

対象：国立大学法人評価の担当者もしくは担当予定者

- ・国立大学法人評価の4年目終了時提出（令和2年6月）に向け、各国立大学の評価作業も本格化し始めているところでしょう。
- ・そこで、各大学における準備状況の事例報告を行い、その後、グループでの情報交換を実施し、「ここに出席すれば、10～20大学程度の準備状況を知ることができる」という場として設定します。
- ・申し込み開始後 **1週間（7月24日）までは「各大学の参加者を2名まで」と**します。定員は40名程度となっていますが、申し込み状況によっては増員する場合があります。
- ・4人班（スタッフを除く）を基本とし、70分1サイクルでメンバーを入れ替えながら、情報交換を行なうスタイルで進めます。当日の流れは以下のとおりです。

■当日のタイムテーブル

09:30～09:45 担当者集会オープニング・セッション趣旨説明

09:45～10:55 第一ラウンド（70分）[4名×10班]

11:05～12:15 第二ラウンド（70分）[4名×10班]

（休憩 70分）

13:25～14:35 第三ラウンド（70分）[4名×10班]

14:45～15:55 第四ラウンド（70分）[4名×10班]

15:55～16:00 まとめ

- ・当日は、自大学の取組状況（準備状況）についてA4用紙半分～1枚程度にまとめたものを、参加人数分ご持参ください。なお、持参していただく資料は、**1大学で1種類にしてください（法人番号は必ず明記すること）**。

- ・参加者名簿は、事前に大学評価コンソーシアム Web サイトにアップする予定です。

[担当スタッフ] ○大野賢一（鳥取大）、浅野茂（山形大）、鳶田敏行（茨城大）、末次剛健志（佐賀大）、関隆宏（新潟大）、土橋慶章（神戸大）、藤井都百（九州大）ほか

[R32] 初歩的な統計講座〔講義編〕（定員 30 名）

[R42] 初歩的な統計講座〔演習編〕（定員 30 名）

事務系職員を対象とした統計の基礎を学ぶ勉強会です。午前（講義編）は、データの種類（量的・質的、名義・順序・間隔尺度など）、データの代表値や散らばりの指標（平均値、中央値、四分位数、分散、偏差値、相関係数）などについて解説し、それぞれに適した処理や見方をするための基礎知識や、グラフ化したりする際のポイントなどの修得を目的とします。

午後（演習編）は、模擬データ（成績関係）を使って簡単なデータ分析の演習を行います。この演習では Excel を利用しますが、表の作成程度にしか Excel を使ったことがない初心者を対象とします。

そのため受講される方は、あらかじめエクセルのデータをご自身のノート PC にダウンロードしておいてください。なお当日の講義編・演習編は Excel2016 の利用を前提とした

	<p>説明となっております。</p> <p><u>※2016より前のバージョンをご利用の方は一部機能（箱ひげ図・ヒストグラム）が利用できませんので、予めご了承ください。</u></p> <p>【担当スタッフ】藤野友和（福岡女子大）、山本義郎（東海大）、○小湊卓夫（九州大）、難波輝吉（名城大）</p>
	<p><b>[R33] IR 実務担当者セッション（定員 80 名程度）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催形態は前日と同様です。途中で昼休みを挟みます。</li> <li>・このセッションの報告タイトルと報告者は以下のとおりです。概要はこの文書の最後にある「別紙」をご覧ください。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>人文社会学系大学における学習成果の可視化を考える 白石 哲也（山形大学）</p> <p>米国の IR 事情：Provost について 浅野 茂（山形大学）ほか</p> <p>テレンジャーニの IR に関する 3 つの知性論に関する考察～5 大学での教職員経験を振り返って～ 上島 洋佑（新潟大学 教育・学生支援機構）</p> <p>質保証に資する為の第 3 期機関別認証評価の実地調査をどう考えるか 荒木 俊博（淑徳大学 大学改革室）ほか</p> <p>立ち上げ期の IR 組織における活動事例 ～広島市立大学における内部質保証・IR プロジェクトの取組み～ 山咲 博昭（広島市立大学 企画室）</p> <p>教育改善に向けた学生調査の分析：GPA との関係をもとに 久保田 祐歌（関西福祉科学大学 社会福祉学部/ IR・FD・アドミッション推進室） ほか</p> </div> <p>【担当スタッフ】○山本幸一（明治大）、岡部康成（帯広畜産大）、上島洋佑（新潟大）、齋藤渉（東北学院大）、橋本智也（四天王寺大）、荒木俊博（淑徳大）、山本鉦（九州工業大）、田中秀典（宮崎大）、藤原宏司（山形大）、佐藤仁（福岡大）、久保田祐歌（関西福祉科学大学）、鈴木達哉（山形大）</p>

## 7. 参加受付

参加受付は、7月18日（木）13時開始、8月2日（金）17時締切を予定しております。また、申し込みは原則先着順となりますが、申し込み状況によっては大学単位で減員をお願いする場合があります。なお、初めて大学評価・IR 担当者集会にご参加いただく方は、以下「10. 大学評価コンソーシアムの web サイトについて」に示す web サイトから大学評価コンソーシアム会員 [会費無料] にご登録をお願いします。また、会員の方は、お持ちのアクセス用の ID とパスワードでアクセスしてください。

定員を少なく設定しているいくつかのセッションは、申し込み開始から1週間以内は各大学・機関で1名もしくは2名のお申し込みを制限させていただく予定です。

## 8. ネットワーク及び電源環境

- ・ネットワークは eduroam をご利用いただけます。eduroam 非加盟校の方で、セッション等での作業などでネットワーク接続が必要な方は、事前に下記問い合わせ先にご相談ください。
- ・電源については、[R32] [R42] 初歩的な統計講座を除いて、原則的に準備の予定はありません。

## 9. 今後の予定

【7月18日（木）】参加受付の開始（13時から）

【8月2日（金）】参加受付の締切（17時まで）

【8月19日（月）】講演資料等のオンライン配布（夕方頃詳細をメール通知の予定）

※各セッション担当スタッフよりメールにて連絡する場合があります。

## 10. 大学評価コンソーシアムの web サイトについて

昨年度までの様子、成果（報告書）については、こちらのサイトにお進みください。また、会員登録については、メニュー左下の「会員専用」のところからお進みください。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php>

### 問い合わせ先

本集会に係る問い合わせ全般については、以下の運営スタッフ用メーリングリストにお願いします。

[acc2018@ml.ibaraki.ac.jp](mailto:acc2018@ml.ibaraki.ac.jp)

なお、問い合わせ内容に応じて、以下の問い合わせ先でも対応可能です。

[内容に関すること]

茨城大学 全学教育機構 畷田 敏行

[toshiyuki.shimada.ir@vc.ibaraki.ac.jp](mailto:toshiyuki.shimada.ir@vc.ibaraki.ac.jp)

電話：029-228-8252（学務部学務課教務企画）

[会場に関すること]

神戸大学 戦略情報室 土橋 慶章

[tsuchihasi@people.kobe-u.ac.jp](mailto:tsuchihasi@people.kobe-u.ac.jp)

電話：078-803-5413

別紙

IR 実務担当者セッション（22 日）の報告概要

ID	タイトル	概要	報告者 ○は、当日報告者	時間
1	大学基本情報の分析環境の紹介と BI レポート作成・管理の tips	当機構では、大学ポートレートに参加する国公立大学を対象に、大学基本情報の分析環境を今秋提供予定である。その概要の紹介のほか、構築にあたって Power BI を利用した際の具体的な課題や技法を共有し、今後 BI 導入等を検討する方の参考情報としたい。	○周東 夏希、佐々木伸、筒井 優子、金原 英徳（以上、大学改革支援・学位授与機構）	30 分
2	米国の IR 事情：FERPA と Registrar について	米国の IR 担当者は、業務上必要とするデータに学生の同意なくアクセスできる。これは「FERPA（1974）」という連邦法が根拠となっており、「Registrar」と呼ばれる教育情報に関する最高責任者が「誰がどのデータにアクセスできるか」を明確に定めているからである。本報告では、米国の大学においてデータの収集・管理・活用の要ともいえる「FERPA」と「Registrar」の概要について紹介するとともに、日本への適用可能性についても検討する。	○藤原 宏司（山形大学）、浅野 茂（山形大学）、山本 幸一（明治大学）	20 分
3	学修成果の評価と学修行動比較調査の可視化について	学修成果の評価や学生の学修行動を把握し可視化して、教育の質向上に資することが求められている。そこで、卒業時コンピテンシーの到達度を、①科目成績（GP）の利用、②学生による自己評価の方法で分析・評価を試みた。また、学修行動調査は、16 大学が参加する ALCS 学修行動比較調査 2018 を用いて分析したので報告する。	○伏谷 建造（川崎医科大学）、○増田 清士（川崎医科大学）	30 分
4	アウトカム基盤型教育を導入している医学部で実施された間接評価から見えること	現在、全国の医学部ではアウトカム基盤型の医学教育への移行が進んでいる。入学時、6 年間の在学中、卒業時、そして卒業後に実施している「間接評価」（学生の自己評価）を実施し、アウトカム基盤型教育の実質化を図った 2 つの医学部の事例を紹介すると共に、見いだされた課題を紹介する。	○江端 弘樹（帝京大学）	20 分
5	オーソライズされた「学修成果の評価方針」の内容と広がり：公表資料の網羅的な調査による検証	とくに私立大学においては、平成 30 年度から私立大学等改革総合支援事業や、私学助成一般補助の「教育の質に係る客観的指標」の要件にアセスメント・ポリシーが加わったことで、学修成果の評価水準や実施方法の方針を検討し、機関としてオーソライズする動きが広がっていると思われる。本研究では、公表資料の網羅的な調査により、アセスメント・ポリシーの内容と広がりを検証する。	○橋本 智也（四天王寺大学教育学部／IR・戦略統合センター）	20 分



6	R 言語を用いた教学 IRデータの分析と可視化	本報告ではR言語を用いた教学IRデータの分析事例を報告する。R言語は無料で利用できる上、前処理、可視化、統計分析などの強力なパッケージ群を有している。なお、当日の発表では中途退学者予測や学修行動調査の分析などの事例紹介を予定している。	○西山 慶太(専修大学教務部 生田教務課 (IR 担当))	20分
---	----------------------------	---	-------------------------------	-----

#### IR 実務担当者セッション (23 日) の報告概要

ID	タイトル	概要	報告者 ○は、当日報告者	時間
7	人文社会学系大学における学習成果の可視化を考える	第3期認証評価において、学習成果の可視化は内部質保証と並び、大きな評価項目に位置付けられる。そのため、各大学では学生の学習成果について様々な観点からの評価を模索している。なかでも、人文社会学系においては学習成果の測定に苦慮することが多い。そこで、本報告では、何が課題となり、また学内でどのように進めていくべきかを議論したい。	○白石 哲也(山形大学)	20分
8	米国のIR事情：Provostについて	米国の一般的な大学では「Provost」という役職が存在し、教学面での統括責任者、そしてIR業務を展開していくうえで重要な責務を担っている。日本においても、指定国立大学法人の指定を受けている一部の大学で導入が進んでいるが、その全容は明らかになっていない。本報告では、米国の大学において「Provost」がどのように位置づけられ、どのような責任や役割を有するのかといった概要を紹介するとともに、日本の大学における適用可能性についても検討したい。	○浅野 茂(山形大学)、○藤原 宏司(山形大学)、土橋 慶章(神戸大学)	20分
9	テレンジーニのIRに関する3つの知性論に関する考察～5大学での教職員経験を振り返って～	日本では、IR組織の力やIRer人材育成が検討される時に、テレンジーニ(Patrick T. Terenzini)による3つの知性論が引用される。しかし、その議論は理論的なところに頼るところが多いものと考えられる。そこで本報告では、5つの大学でIRやそれに類する実践経験をした本報告者のオートエスノグラフィーを通して、我が国におけるテレンジーニの3つの知性論について帰納的に考察することを試みたい。	○上畠 洋佑(新潟大学 教育・学生支援機構)	20分
10	質保証に資する為の第3期機関別認証評価の实地調査をどう考えるか	機関別認証評価の实地調査は、大学の教育研究や質保証に取り組む姿勢を実際に確認し、必要な情報を収集する事を目的としている。本報告では、大学基準協会第3期認証評価を受審した大学の事例をもとに、自己点検・評価報告書提出後から实地調査までを大学としてどのように捉えるべきかを検討したい。	○荒木 俊博(淑徳大学大学改革室)、○山咲 博昭(広島市立大学企画室)	20分

11	立ち上げ期の IR 組織における活動事例～広島市立大学における内部質保証・IR プロジェクトの取り組み～	これまで立ち上げ期の IR オフィスにおける活動内容やその在り方に関しては数多く事例が報告されてきたが、一方で公立大学における事例報告は未だ数少ない。そこで、本報告ではまず、報告者が所属する広島市立大学における事例を基に IR 組織の設置から活動に至るまでのプロセスと課題について報告する。そのうえで、第 3 期認証評価における内部質保証システムの機能化に IR がどのように寄与するのかについて議論したい。	○山咲 博昭（広島市立大学企画室）	20 分
12	教育改善に向けた学生調査の分析：GPA との関係をもとに	学生調査を教育改善に用いるためには、改善に向けた一定の方向性が見出せる分析結果が必要となる。本報告では、本学の授業アンケート、学修習慣実態調査と学生の GPA との相関分析を行った結果を紹介しながら、学生調査を教育改善に活用する方法を検討する。	○久保田 祐歌（関西福祉科学大学社会福祉学部/ IR・FD・アドミッション推進室） 木村 貴彦（関西福祉科学大学健康福祉学部/ IR・FD・アドミッション推進室）	20 分

※途中、昼休憩を挟みます。